

# 北

のふれ

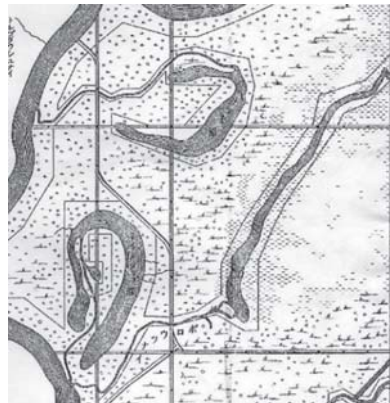
# 愛



## 美唄のコタン



北海道実測図



石狩国空知郡上美唄原野区画図



蝦夷全図

美唄には、江戸期にアイヌのコタン（集落）があったのかどうかも含めて、詳細が不明でした。そこで今回美唄のコタンについて調査・検討してみました。

間宮林蔵作と推定されている「北海道実測図」には、細長い沼の横に○印が描かれています。この○印はコタンを意味しています。

この細長い沼は『石狩国空知郡上美唄原野区画図第壹』にも描かれていて、現在の産化美唄川の弘法橋の上流部分に相当します。

美唄にも江戸期にコタンが存在していたことの証拠となります。

「北海道実測図」の○印は浦臼町側では「ヲホイチヤン」と表記されています。これは現在の沼に流れ込んでいた川で、産化美唄川より北側となり位置関係が離れすぎています。

この図からだけではコタンが、美唄のどこにあったか確定できません。

さらに調査をすると間宮林蔵のデータで作成されたとされる「蝦夷全図」のキーカルシ川が流れ込む沼の横に○印が描かれています。このキーカルシ川が流れ込んでいる沼は、永田方正の著した「永田地名解」によると「北海道実測図」の細長い沼と同一の沼です。

このことから「北海道実測図」と同じコタンを描いていることとなります。

「蝦夷全図」では、浦臼町側は「ヲシヨキナイ」（現在の晩生内川）で、位置関係は、現在と同じです。



現行地図における関連地名

これらの検討の結果、コタンは美唄市中村町の菱沼付近にあったこととなります。

美唄市中村町には、入植ときに「菱沼から石狩川に流れる川のほとりにアイヌ一家が居て」との伝承があることから、江戸期から明治までこの付近にコタンが持続していたことがうかがわれます。

美唄には他にもいくつかコタンがありますが、紙幅が尽きたため割愛させていただきます。

（平隆一記）